



掘削航路の沖側からの砂の移動・堆積

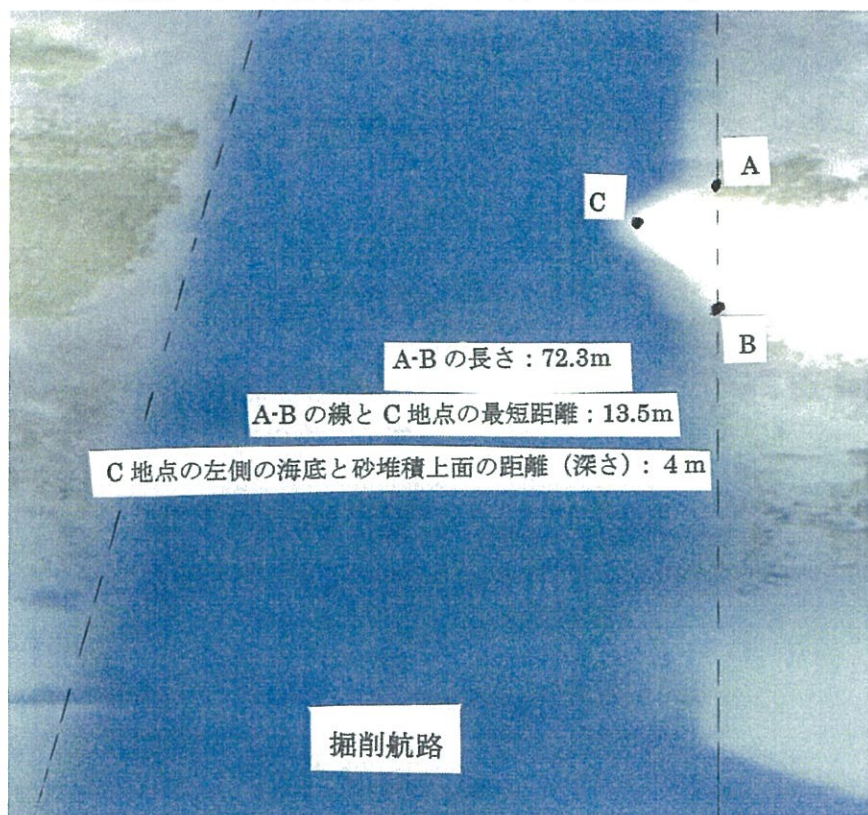
1. 2013年7月22日の掘削航路の上空からの写真（撮影：泡瀬干潟を守る連絡会）↓



2. 上記写真の砂の移動・堆積の部分の拡大（7月22日は大潮で最大干潮時の潮位は12.55 c m。堆積した砂がはっきり見える。）↓ 掘削航路の反対側は砂が左側に移動し、礫だけが見える。



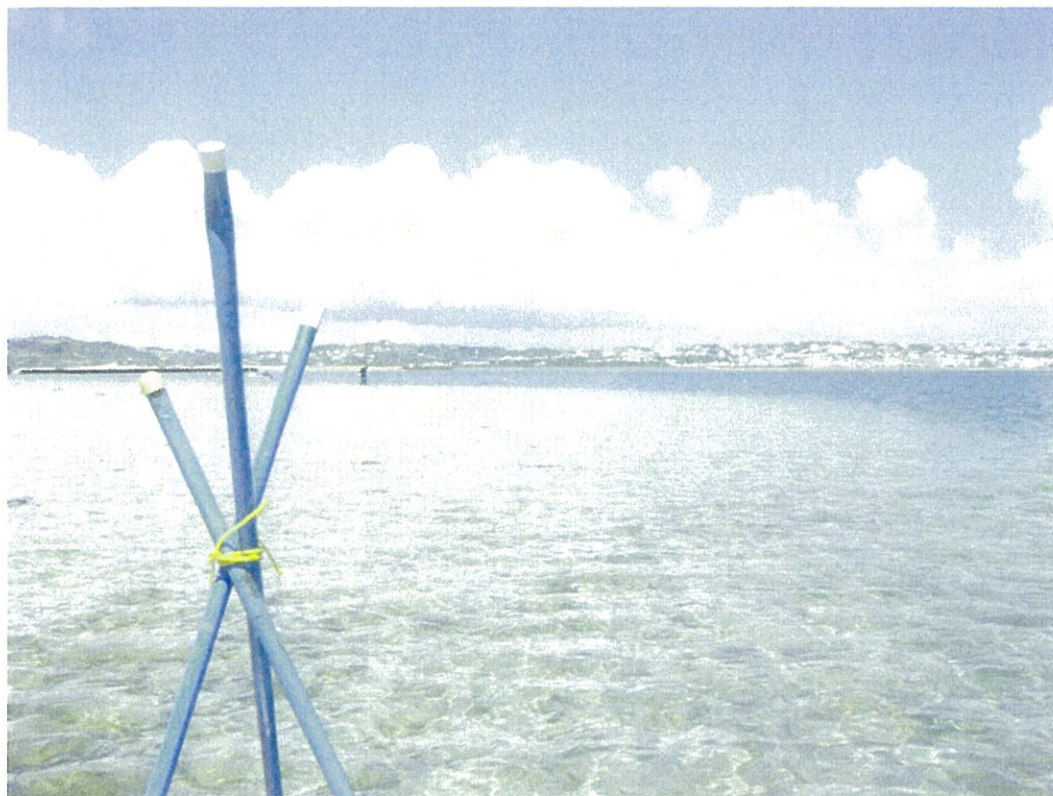
3. 上記場所の砂の堆積状況（2013年8月18日調査） ↓



4. 8月18日の調査の写真（8月18日は中潮で干潮は10時半頃。最大干潮の潮位は11.02cm。堆積した砂は海面下であった。） ↓



上記のBの地点（3本の杭）からAの地点（人が立っている）方向の写真。左先にC地点の3本の杭が見える。画面の左側が掘削航路で、そこに砂が移動・堆積しているのがわかる。遠くは勝連半島。 ↑



A地点（3本の杭）からB地点（人が立っている）方向。右側が掘削航路で砂が移動・堆積しているのが分かる。

↑



B地点（3本の杭）からA地点（人が立っている）を方向。左が掘削航路でC地点（3本の杭）が見える。

遠くに見えるのは勝連半島。↑



掘削航路の陸側の淵。砂はなく、礫（石）だけが見える。遠くは東側砂洲の陸側の堆積部分



3本の支柱
(上)

13.5 m

72.3 m

支柱

推積した
砂の範囲

概算面積
600 ㎡